

## 48 十八世紀オランダの医療界の構造

### と蘭学

石田 純 郎

江戸時代の日本における蘭学の由来、ヨーロッパの医療界の中の性格や学統を知るためには、一八世紀のヨーロッパの医療界の構造を知ることが必要である。ところが後述するような理由で、ヨーロッパの医療界の構造については、従来正確には日本で紹介されることはなかった。

演者は昨年、一年間半オランダ・ドイツ等に滞在し、その点を調査した。公文書に残されている記録を調査(拙著「オランダの大都市における一七世紀末から一九世紀後半に至る医療職の構造」『医学史研究』六五・六六合併号、一九九一年刊参照)すると共に、オランダ医学史の社会的な論文(石田及ハウスマン共著「Quackとは何か?——オランダ連邦共和国時代の巡回医療職について」『医譚』復刊六一号、一九九一年刊参

照)や、絵画史料を利用して、複雑な一八世紀(一七五〇年を想定)の医療構造の解明につとめた。そして身分格差のある左記の四二の医療職に分類した。

学医 1…大学教授

公認医 2…M D (内科医)、3…M D 外科医、4…ギルド外

科医 (床屋兼業)、5…ギルド船外科医、6…植民地医

公認職 7…専門床屋 II 瀉血師

Quack (巡回医療職) A 専門職、公認またはパート公認、

8…結石摘出医、9…ヘルニア修復師、10…目医者、11…

歯医者、12…施術者

Quack (巡回医療職) B 巡回大衆医、未公認、13…民間治

療師、14…薬商、15…行商医、16…骨つぎ、17…肉眼的検

尿者、18…秘密の医薬商、19…吸玉師

Quack (巡回医療職) C インチキ医、20…手品医(摘石師)、

21…ジプシー、22…魔女、23…悪魔払い

公認産科職 24…産科医 (M D 又は外科医)、25…正産婆、

26…准産婆

薬扱者 27…薬剤師、28…薬店 (Druggist)、29…化学薬店

(chemist)

その他の異質は医療(学)職 30…解剖手、31…聖職者(修道士)、32…聖職者(修道女)、33…ユダヤ人医療職、34…王様(ロイヤルタッチ)

公職(町関係) 35…町内科医、36…町外科医、37…町産科医、38…町薬剤師、25・26…町産婆(正・准)

公職(王関係) 39…待医、40…軍医

公職(収容施設管理者) 41…理事、42…女理事

フランス革命とそれに続くナポレオンによる社会変動後、国が中央集権化され、医師の資格が均質化の方向に向うまで、こうした極めて複雑な医療構造が存在した。

そして医学史というものは、一九世紀に1、2、3に起源を発する大学の医療人によって作られたために、その中に登場する人物は、ほぼ1、2、3、24に限られ、4になると軽視され、5以下は無視あるいは蔑視される。それが一八世紀のヨーロッパの医療界が、正確に日本に紹介されなかった主な理由である。本来巡回医療職であったQuackが、現在「ヤブ医者、ニセ医者」と理解されているのもその理由による。また現在、日本語で気楽に読める本、例えば川喜田愛郎著『近代医学の史的基盤』も、酒井シツ他訳

『医学の歴史』も、この保守的な史観にたっている。

しかし、日本の受容した蘭学のオランダにおける学界にかかわる医療職種は、3、4、5、6が主体であり上記の一般的な西洋医学界史に取り上げられる職種とく違っている。それゆえ、蘭学書の原著者たちの履歴は調べにくかったのである。

形而上性の高かった知識を持った医療職(1、2)よりも、ギルド外科医(4)の方が、技術的にはむしろ秀れていたという点が、大切である。そうした理由から、日本の受容した蘭学原書が、「初心者用」(酒井シツ著『日本の医療史』二七八頁)とか、「程度が高くない」(同掲書三六一頁)と考えることは誤っている。

日本は、蘭医学においても、明治初期の独医学においても、こうした技術には秀れてはいるが、思想性の乏しい外科医界の医学を、内科・薬学も含め、受容したのである。

(新見女子短大)